

どのスポーツ競技においても、
大会やイベントは開催される。
そんな戦いの舞台が
作り上げられていくうえで
支えるモノとヒトがいる。
株式会社アクティオも
スポーツを支える企業のひとつだ。
支える側の舞台裏には
どんなストーリーが存在するのか。
前後編に分けて紹介していく。

〈前編〉

スポーツの 舞台を支える

モノ

と

ヒト





01 パンパシフィック水泳選手権の会場となった東京辰巳国際水泳場。ダイビングプールの水を抜き、底面の清掃を行う

02 タイルの部分にビニール、底面を板で覆う。そのうえにパイプで骨組みを組んでいく

03 目に見えない地下の部分でしっかり基礎を作ることで、8mの高さのスタンド席の強度を保つことができる

04 地上においても階段上に骨組みを組んでいき、両端に欄をつけ、スタンド席として形になっていく

05 背もたれのある椅子を設置し完成。最上段上の飛び込み台はそのまま

06 お客さまやメディアが着席し、パンパシフィック水泳選手権を観戦

建 設機械のレンタル・リース・販売を事業とする株式会社アクティオ。建設機械とスポーツとは、あまり関わりがあるようには思えないが、現在、アクティオはビーチバレーボールを全面的にバックアップしている。2018年シーズンからジャパンビーチバレーボールツアーのスポンサーとなり、全国各地のツアー会場での縁の下からこの競技を支えている。

パーしたFVBビーチバレーボールワールドツアーで、観客席の設営を担った。東京・江東区青海で6日間に渡って行われた東京大会の会場は、もともと広大な駐車場だった。そこへ持ち込まれた1600トンの砂を取り囲むように2000席の仮設スタンドを設置。殺風景な駐車場を連日熱狂するスタジアムへと変貌させた。

ビーチでの設営施工は昨年からだだが、他競技では長年の実績がある。アクティオが本業での技術、ノウハウを生かし、仮設スタンドの設営を始めたのは1990年代。ゴルフーナメントでスタンドの需要が増えてきた時代である。競合他社としてのぎを削る中、精度、品質に優れたドイツ製の部材を使用し、業界内に確固たる地位を築いてきた。

ビーチ、ゴルフ、アーバンスポーツなど対象としている競技は多岐にわたる。中でも水泳競技での施工は2008年から継続的に進んできた。2018年パンパシフィック水泳選手権の会場、東京辰巳国際水泳場では、メインプール横の、通常はダイビングプールである場所にスタンドを設置した。しかし、水深5メートルのダイビングプールの底に基礎を組み、そこから8メートルの高さのスタンドを建て上げるのは、技術のいる作業となった。

現場で作業を指示したプラザ事業部営業一課・金成保徳課長は「国際大会のプレッシャー、作業の時間的制約もあり、難しい作業でした」と話す。

初めて取り組んだスタンドから仮設橋をかける施工、プールの壁面を傷つけないような養生など、繊細な作業が多く、アクティオにとっても、それはビッグプロジェクトであったという。「選手ははだしで歩きますので、その部分にも気を遣いました」と金成課長は話す。

2018年パンパシフィック水泳選手権。

スタンド席

MAKING
STORY

なぜビーチを支援するのかという問いに、戸張貴彦プラザ事業部長はこう答える。「我々の仕事は一般には知名度が高いわけではありません。ただスポーツとは親和性は高く、スポーツを応援することで、会社のイメージアップ、社会貢献につながると考えています。メジャーな野球やサッカーではなく、ビーチバレーボールを支援することは、ゆっくりではあっても一緒に盛り上がり、発展をしていきたいという考えです」

数々のビッグプロジェクト

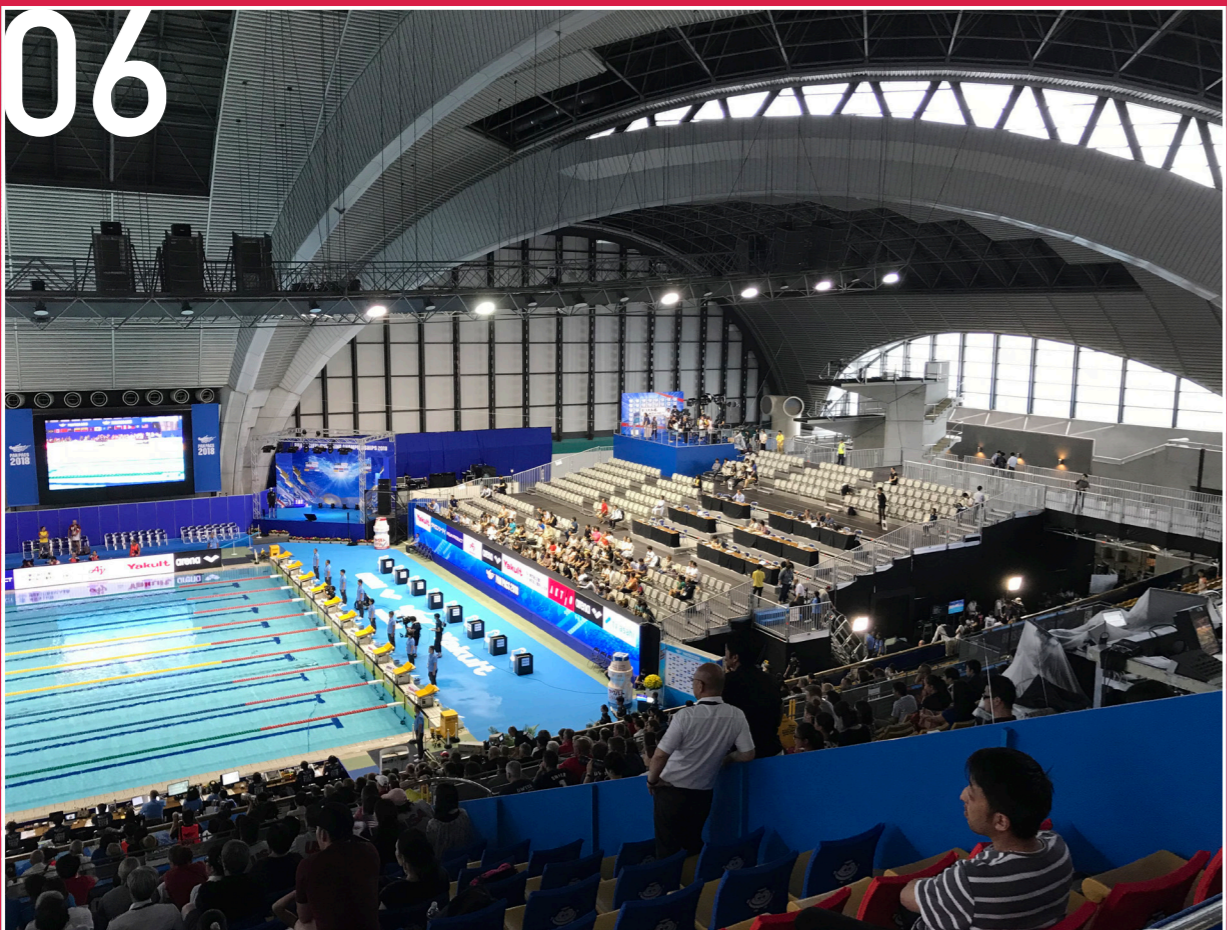
ビーチバレーボールをはじめとするスポーツとアクティオの最大の接点は、試合会場での仮設スタンドの設営である。ビーチにおいては、昨シーズン、3年ぶりに日本にストップオー

スポーツイベントの
スタンド

揺れが少なく安定性が高いと評判のアクティオの仮設スタンドだが、最大3000席の設置経験もあり、技術的にはもっと巨大で高さがあるものも可能だという。ビーチとともに発展をめざす仮設スタンドの事業だが、東京オリンピックを契機にさらにニーズは高まると戸張事業部長は話す。「今年は水泳世界選手権、ラグビーワールドカップ、ハンドボール世界選手権とイベントが続き、需要が出てきています。また、オリンピックでも常設ではなく仮設で競技施設を作る方向になりつつあります」

事業部長の話の通り、国際オリンピック委員会は近年、持続可能性を掲げ、開催都市の財政をひっばくさせるほど膨れあがったオリンピックの開催経費の削減を、重要課題としている。それにより既存施設の活用、仮設での競技場建設は、オリンピックのみならず多くのスポーツイベントのスタンドとなってきた。また国内では、今年3月に大学スポーツ協会が創設された。これまでアマチュアであったスポーツも、集客を積極的にに行い、ビジネスとして拡大させようという時代に入った。

スポーツをとりまく様々な状況が、仮設スタンドを欲している。また、現在の仮設スタンドの安全性は高いが、快適性、高級感などはあまり考慮されておらず、まだまだスタンドの価値を高められる要素は大きい。仮設スタンドが必須であるビーチバレーボールとアクティオの密接な関係が、新たな価値を生み出す可能性もある。それをきっかけにして、ともに発展していく未来図を描きたいところだ。



揺れが少なく安定性が高いスタンド席。
東京オリンピックを契機にニーズは高まっていく